

令和5年度 芸術科 造形と陶芸シラバス	単位数	学年・学級	使用教科書・副教材等	担当
	2単位	3学年 B群選択1～2組	担当者による参考図書の準備 や資料作成を行う。	城間 大輔

### 学習の目標

基礎的な造形と陶芸の知識と技術を学び、工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

### 評価の観点

- ・生活の中に活かされている工芸、心豊かな生き方に関わる工芸の働きを理解し、創造的な表現をするために材料や用具を活用する技能を身に付けている。
- ・感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取り、創作の意図を豊かにもち、発想や構想で創造的な表現の工夫をしている。
- ・工芸を愛好し、生活と美しさとのかわりに関心を持ち、意欲的、主体的に創造的な表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わっている。

### 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加状況（制作へ取り組む姿勢、制作の準備・後かたづけ）</li> <li>・制作した作品（試作品など制作の全過程）</li> <li>・制作ノート（アイディアスケッチや制作計画、制作の記録、自己評価など）</li> <li>・振り返り表</li> </ul>
---

### 学習計画及び評価基準

学期	月	題 材	指 導 内 容	指 導 上 の 留 意 点
一 学 期	4	オリエンテーション	・造形と陶芸の年間授業内容と目標を説明する。	・学習の目標をもたせる。
		陶芸の基礎的な知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン、機能美、用途美について説明する。</li> <li>・工芸の種類・工芸の素材</li> <li>・やきものの種類、歴史、陶芸の果たす役割について</li> <li>・制作工程を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（プリント資料、ワーク配布）</li> <li>・身の回りや地域の工芸品を取り上げ、機能美、用途美について理解させる。</li> </ul>
二 学 期	5	陶芸の基礎的な技術 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土づくり</li> <li>◎「手びねり」による作品制作 「とって付きのカップ」と「マカイ」</li> <li>・デザインスケッチ</li> <li>・紐づくり、タタラづくり、ろくろなどの成型技法</li> <li>・器の形に応じて適した施釉の方法を行う。（ずぶ掛け、廻し掛け、刷毛、霧吹きなど）</li> <li>・下絵の具による模様や文字入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶土精製の一部を体験させる。</li> <li>・土練機の安全な使い方。</li> <li>・器の形を考えることで、目的意識を高める。</li> <li>・実技演習をとおして、準備から片付けまでの一連の作業の流れと道具の効果的な使い方を理解させる。</li> <li>・釉薬の使用法、管理の徹底。</li> <li>・道具の後片付け、作品、材料の保管を徹底させる。</li> </ul>

		鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土作り～成型～加飾～乾燥～素焼き～絵付け・施釉～本焼きまでの制作工程を振り返り、確認する。</li> <li>・窯詰め～窯出し</li> <li>・完成した器の用途と機能について考察し、講評を行う。</li> <li>・沖縄の陶芸の歴史と作家の多様な表現方法を知り、自己のデザインに活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窯出しと出来上がった器での試飲を通して完成の喜びを味わう。</li> </ul> <p>(プリント資料、ワーク配布)</p>
一 学 期	6	陶芸の基礎的な技術 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土づくり</li> <li>◎「手びねり」による作品制作 「とって付きのカップ」と「マカイ」</li> <li>・デザインスケッチ</li> <li>・紐づくり、タタラづくり、ろくろなどの成型技法</li> <li>・器の形に応じて適した施釉の方法を行う。(ずぶ掛け、廻し掛け、刷毛、霧吹きなど)</li> <li>・下絵の具による模様や文字入れ</li> <li>・土作り～成型～加飾～乾燥～素焼き～絵付け・施釉～本焼きまでの制作工程を振り返り、確認する。</li> <li>・窯詰め～窯出し</li> <li>・完成した器の用途と機能について考察し、講評を行う。</li> <li>・沖縄の陶芸の歴史と作家の多様な表現方法を知り、自己のデザインに活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶土精製の一部を体験させる。</li> <li>・土練機の安全な使い方。</li> <li>・器の形を考えることで、目的意識を高める。</li> <li>・実技演習をとおして、準備から片付けまでの一連の作業の流れと道具の効果的な使い方を理解させる。</li> <li>・釉薬の使用方法、管理の徹底。</li> <li>・道具の後片付け、作品、材料の保管を徹底させる。</li> <li>・窯出しと出来上がった器での試飲を通して完成の喜びを味わう。</li> </ul> <p>(プリント資料、ワーク配布)</p>
二 学 期	8 9	陶芸の基礎的な技術 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「水びき(電動ろくろを使用した成形方法の指導)」 「器全般」茶碗、コップ、皿、花器、小鉢など</li> <li>◎「シーサー」づくり 基本的に釉薬を使用せず、焼き締める方向で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具や機械の正しく安全な使い方を理解させる。</li> <li>・シーサーの意味と由来を知り、作品作りを行う。</li> <li>・用途に応じ土の種類を選ばせる。</li> </ul>
		鑑賞		

二 学 期	10	自主制作 (卒業制作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業制作の計画をたてる。</li> <li>・オリジナル作品(器、オブジェなど)のアイデアスケッチをさせる。</li> <li>・デザインに適した技法を考え、成型、加飾、絵付け、施釉を行う。</li> <li>・様々な装飾 線彫り・象嵌・搔き落とし・張り付け」など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験した技法や試作後の反省を基に作りたい作品を考えさせる。</li> <li>・個々に適したアドバイスをして制作計画をたてさせる。</li> <li>・機能性のみならず、ユニークな形や色など様々なデザインコンセプトについても考えさせる。</li> </ul>
	11	(気持ちを伝えるカタチ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・贈る相手を決めてデザイン・制作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで培った技術を活かして、「贈る」というテーマで制作に取り組みさせる。</li> </ul>
	12	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作した器で試飲し、機能について考え、講評を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品鑑賞を通して、表現の多様性を知り、個性を尊重する。</li> </ul>
三 学 期	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・贈るための包装のデザインをする。</li> </ul>	
	2	造形と陶芸のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作に使用した道具の整備</li> <li>・材料の後片付けと、工芸室の大清掃</li> <li>・一年間の陶芸との関わりを振り返る</li> <li>・作品整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して、機能美、用途美、デザインについて学んだことを今後の生活に活かせるように伝える。</li> </ul>